

令和 7 年度

事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

目 次

1	はじめに	1
2	郵政博物館の運営事業	1
(1)	郵政博物館の展示活動	1
(2)	収集・保存、調査研究活動	3
(3)	文化・教育普及、生涯学習支援活動	3
(4)	近隣文化施設との連携	3
3	前島密賞の贈呈事業	4
4	通信文化の普及・発展事業	4
(1)	会報「通信文化」の発行	4
(2)	文化講演会等の開催等	5
(3)	J P ペンフレンドクラブ(J P P F C)への活動支援	6
(4)	社会貢献活動の実施	7
5	土地・建物賃貸事業	7
6	会員に対する諸施策	7
(1)	叙勲祝賀会の開催	7
(2)	新年賀詞交歓会の開催	7
(3)	記念品等の贈呈	8
(4)	団体傷害保険等の取扱い	8
7	会員増加対策	8
8	役員会議等開催状況	9
(1)	理事会	9
(2)	評議員会	9
9	資金運用の弾力化	10
10	寄付の依頼	10
(1)	会員への寄附の依頼	10
(2)	一般寄附の募集	10
11	業務等の見直し	10
	「事業報告の附属明細書」はない旨の記載	10

1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

当協会は郵政博物館の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

収蔵施設については千葉県市川市 行徳郵便局内に「郵政博物館資料センター」を設置している。

2 郵政博物館の運営事業

郵政博物館は、明治32年の逓信省内の参考品室を起源とし、押上展示場は郵政・通信文化の普及・発展に向け次世代の利用者との幅広い交流を図り、歴史的資料・知識を後世に伝えることを目的として、平成26年3月に東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンして12年目を迎えた。また、分館として、前島記念館(新潟県上越市)、坂野記念館(岡山県岡山市)及び沖縄郵政資料センター(沖縄県那覇市)を設置している。

日本郵政(株)からの受託及び(一財)ゆうちょ財団、(一財)簡易保険加入者協会からの寄附により、「展示」、「収集・保存、調査研究」、「文化・教育普及、生涯学習支援」という博物館における3つの活動を行い、不特定多数の方にとって文化教養を磨く場、教育普及の場としての活動を行っている。

また、新たな取組みとして、令和6年7月5日(金)から令和8年1月31日(土)までの約1年半、常設展示場において日本郵便株式会社とSCRAP社とのコラボレーション企画として「リアル脱出ゲーム 郵政博物館と時を超えた手紙の謎」が開催され、好評を博した。

(1) 郵政博物館の展示活動

押上展示場の常設展示室では、「心ヲツナグ 世界ヲツナグ」をコンセプトテーマとして、体験型のデジタル機器や映像手法などを使って郵政文化を楽しく体感できる展示としている。令和7年度は、「戦後80年を記念した『《戦後80年》 遠景の昭和—日本と郵政の復興—』」等を開催した。

同展示場の企画展示室では、郵政・通信文化の歴史を伝承するとともに文化・学術・教育の発展への寄与を目的とした企画展を3回、その年の年賀状を展示する「午年年賀状展」や昭和改元100年を記念した「ぼくらの昭和切手展」等の展示を4回開催した。

令和7年度の押上展示場への入館者は47,724名(対当初計画95%)、開館日数は320日で、一日平均149名となった。

なお、前島記念館は8,814人、坂野記念館は5,522人、沖縄郵政資料センターは1,674人の入館者があり、郵政博物館全体で63,734人となった。

ア 企画展示室での開催状況

No	特 別 展 名	期 間	開催 日数	入館者数(人)
企画展				
1	ゆうちょ 150 年記念特別展示 「ゆうちょ」150 年 —はじまりからアプリまで—	4 月 26 日～6 月 22 日	51	9,376
2	くまのぬいぐるみの郵便屋さん ぽすくま 原画展	8 月 2 日～9 月 23 日	50	9,510
3	終末のワルキューレ	10 月 4 日～9 月 23 日	62	8,238
企画展以外の展示				
1	デザインの変遷 昭和普通切手原画展	7 月 5 日～7 月 21 日	15	2,707
2	午年年賀状展	12 月 20 日～1 月 18 日	22	3,463
3	ぼくらの昭和切手展	1 月 31 日～3 月 22 日	44	5,429
4	スタンペックス 2025	3 月 28 日～3 月 30 日	3	594

イ 常設展示場及び多目的スペース等での主なイベント開催状況

No	主 催 者	イ ベ ント 名	期 間
常設展示場			
1	郵政博物館	常設展示場テーマ展示「《戦後 80 年》 遠景の昭和—日本と郵政の復興—」	8 月 2 日～9 月 23 日
2	郵政博物館、日本郵 政(株)スポーツ&コミ ュニケーション部	「日本郵政グループ女子陸上部 “POSTIES (ポスティーズ) 関連展示」	1 月 10 日～1 月 28 日
3	日本郵便(株)、(株)SCRAP	リアル脱出ゲーム「郵政博物館と時を超 えた手紙の謎」	令和 6 年 7 月 5 日～ 8 年 1 月 31 日
多目的スペース			
1	郵政博物館	GW ワークショップ「こいのぼりワークシ ョップ」	4 月 26 日及び 5 月 3 日 ～5 月 6 日
2	郵政博物館、NPO 法人 郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展 「第 8 回南方占領地のフィラテリー展」	6 月 14 日～6 月 15 日
3	郵政博物館	2025 年度 新収蔵資料展	6 月 17 日～6 月 29 日
4	郵政博物館、NPO 法人 郵趣振興協会	郵博 特別切手コレクション展「東京ワ ンフ্রেームチャンピオンシップ 2025」	7 月 5 日～7 月 6 日
5	受信環境クリーン中 央協議会	第 58 回「令和 7 年度受信環境クリーン 図案コンクール」入賞作品展	10 月 17 日～10 月 30 日

6	(一財) ゆうちょ財団	NGO 海外援助活動助成に係る民間海外援助団体の活動 パネル展示	11月1日～11月16日
7	郵政博物館、一般社団法人国歌の輪	切手に見る世界の国歌展	1月22日～12月14日

押上展示場以外の各分館では、地域に縁の深い資料の展示活動を行っている。沖縄郵政資料センターでは、令和6年度に寄贈された「沖縄復帰10年記念ポスト」を令和7年7月29日に展示場内に設置した。

(2) 資料の収集・保存、調査研究活動

博物館活動の基盤で重要な活動となる資料の収集・保存活動は、収蔵資料のデジタル化の推進、ネット上等での公開など、昨今のネット情報社会に対応した取組みを継続しており、本年度は30件の収集を行った。そのほか未整理資料を対象とした整理業務を行い、42,259件のデータ入力を実施した。

また、調査研究については、発足して17年目を迎えた郵政歴史文化研究会等を通じ、研究者向けの学問的水準を維持する一方で、広く社会に研究成果を公開することを目指し、通信文化に関する研究活動を積極的に推進した。

ア 郵政歴史文化研究会の開催（第1～第6分科会）

イ 研究紀要の発行（第17号：令和8年3月発行）

ウ その他調査研究・修復・保存整理の実施等

(3) 資料に関する情報提供、教育普及活動等

収蔵資料に関して、報道関係者、他の博物館・美術館、ドラマ・映画制作会社、研究者等からの資料の撮影や閲覧、取材等に対応したほか、通信文化資料の有効活用のために、他の博物館・美術館・資料館に収蔵資料の貸出及び画像データ提供を行った。

また、教育・普及活動の一端として、博物館学芸員課程受講者を対象に博物館実習を行ったほか、日本郵政グループの社員研修等にも協力し、講義や見学研修などを行った。

No.	項 目	件 数
A	閲覧	53件
B	撮影・データ提供・掲載・放映	535件
C	資料貸出・貸出キット	56件
D	取材・照会回答	325件

(4) 近隣文化施設との連携

「すみだ北斎美術館」や東京スカイツリータウン・ソラマチと連携を図り、すみだ企業博物館連携協議会の活動等を通して、地域振興・活性化施策の推進を図った。また、すみだ生涯学習センターの主催する区内ミュージアム・博物館連携施策において、郵政博物館を紹介する講座を行った。

3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、近代国家の建設に当たり、社会の基盤となる郵便や物流をはじめとしたネットワークを整備し、国民の暮らしに多大な利便性をもたらした通信事業の創始者である前島密の功績を記念し、文字コミュニケーション・情報通信・放送分野でその精神を伝承・発展せしめるために、昭和30年度に創設された。また、令和2年度（第66回）から、現在活躍し今後もなお一層の功績が期待される者を対象とした奨励賞を創設した。

以来、令和6年度までに同分野において顕著な功績のあった方々に対して、前島密賞は1, 238名・20団体、奨励賞は22名に贈呈して、その功績を称え顕彰するとともに文字コミュニケーション・情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

令和7年度の前島密賞（第71回）については、各推薦機関（総務省、日本郵政(株)、NTT(株)、日本放送協会、電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟、通信文化協会）からの推薦により実施した。

令和7年7月4日に募集要綱をホームページで公表するとともに、同年9月30日を締切日として推薦を依頼し、2回の選考委員会及び理事会決議を経て、前島密賞は30名（個人12名、1団体、共同研究17名）、奨励賞は個人5名の受賞者を決定し、令和8年4月9日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。受賞者の氏名、功績概要等は、各報道機関に通知したほか、当協会のホームページで公表するとともに会報「通信文化」に掲載した。

4 通信文化の普及・発展事業

(1) 会報「通信文化」の発行

記事内容は、読者の約6割を占める郵政グループ現役社員に役立つものとするため、郵便局等での様々な社員の活躍や郵便局での取り組みなどを紹介した。新連載「金融経済を知るための葉」を(株)ゆうちょ銀行社外取締役の山本謙三氏に執筆いただいている。

健康問題は、読者の関心が極めて高いことから、医師の鎌田實氏の執筆する「人生100年時代をどう生きるか」を引き続き掲載し、読者からは好評を得ている。また、読者への還元として、当選者に各地の名産品等が当たる「読者プレゼント」を引き続き実施した。

特集記事コーナーでは、著名人による講演会の内容を「岡野裕基金記念講演会」記事として紹介するほか、自然災害や社長インタビュー等の時事問題にも触れ、毎回読者アンケートで好評を得ている。

なお、こうした会報編集に加えて、会報に掲載する広告の募集にも力を入れ、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 728, 400部発行（月平均60, 700部）

（敬称略）

発行月	特 集 記 事	執筆者又は話し手
7年 4月	執筆 「国際情勢を読み解く」	(株)日本総合研究所国際戦略研究所特別顧問 田 中 均
5月	岡野裕基金記念講演会 「地方創生を考える」	山形県西川町町長 菅 野 大 志
6月	岡野裕基金記念講演会 「主体的に考動し会社を変革する」	株式会社トーチリレー代表 元ファーストリテイリング上席執行役員 神 保 拓 也
7月	第70回前島密賞受賞記念インタビュー 「岡山放送情報アクセシビリティに 向けての取り組み」 執筆 「大規模災害に備えた被災自治体支 援のあり方を問う」	岡山放送株式会社前代表取締役社長 中 静 敬一郎 岡山放送株式会社情報アクセシビリティ推進 部アナウンス部長兼アナウンス部 篠 田 吉 央 聞き手 通信文化協会理事長 高 橋 亨 東京大学大学院情報学環 総合防災情報研究 センター客員教授 松 尾 一 郎
8月	執筆 「知っておきたいインターネット活用 法と注意すべきネットトラブル」	ITジャーナリスト・スマホ安全アドバイザー 鈴 木 朋 子
9月	執筆 「減災社会により巨大地震を乗り越え る」	名古屋大学名誉教授 福 和 伸 夫
10月	インタビュー 「歩みを止めず取り組みを加速させ る」	日本郵政株式会社社長 根 岸 一 行 聞き手・通信文化協会理事長 高 橋 亨
11月	インタビュー 「経営資源を最大限に生かし、お客さ まサービスに繋げる」	日本郵便株式会社社長 小 池 信 也 聞き手・通信文化協会理事長 高 橋 亨
12月	執筆 「アジアを考える」	熊本県立大学特別栄誉教授 白 石 隆
8年 2月	執筆 「生成AIの衝撃人工知能時代をどう 生きるか」	日本科学技術ジャーナリスト会議会長 室 山 哲 也
3月	執筆 「働き方改革、その先への展望」	大妻女子大学データサイエンス学部教授 鶴 光 太 郎

（2）文化講演会の開催等

当協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附（1億円）による「岡野裕基金」により、

全国各地において、「文化講演会」を8回、総数1,190人の参加を得て開催するとともに、手紙教室を140回、総数12,437人の参加を得て開催し、文化活動を行った。

文化講演会等開催状況

地方本部	開催日	施策名等	講師	開催場所	参加者数(人)
北海道	R8.1.12	北海道吹奏楽団 「イル・ポスティーノ」 コンサート	近藤 忠久 氏 (イル・ポスティーノ 代表)	札幌市生涯学習センター 「ちえりあ」ホール (札幌市)	300
東北	R8.1.10	伊達政宗公のまちづくり ～城下町仙台のヒミツ～	木村 浩二 氏 (郷土史家)	AER(アエル)30階ホール (仙台市)	144
	R8.1.17	失敗から学び ことばで 進む ～響く伝わる”ことば” にあるもの～	中谷 文彦 氏 (日本放送協会 山形 放送局長)	山形国際ホテル 5階鳥海の間(山形市)	67
東京	R7.10.8	「CS・ES向上セミナー」 顧客ロイヤルティ研修	高木 雄子氏 (NPO法人顧客ロイヤ ルティ協会・副理事長 研修部長)	新宿郵便局9階大会議室	105
信越	R8.2.25	10年後の未来を切り開く ためには	藤原 和博氏	シャトレーゼホテル長野 (長野市)	180
東海	R8.1.24	生涯生活設計年金セミナー	安江 美和子氏 (社会保険労務士・年 金コンサルタント)	日本郵便(株)東海支社会 議室	252
	R8.1.25	生涯生活設計年金セミナー		静岡中央郵便局会議室	42
四国	R8.2.18	自由は土佐の山間より～ フレイルに強いまちづく り	小松 仁視氏 (NPO法人フレイルサ ポート仁淀川理事)	日本郵便(株)四国支社・ 講堂 (松山市)	100

(3) J P ペンフレンドクラブ (J P P F C) への活動支援

ア 地域交流会活動支援

例年、手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、日本郵便(株)各支社において開催される「P F C 会員交流会」の講師の手配、会場の確保、ノベルティグッズの提供などの支援を行っている。

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク(会員会報誌 毎月1回発行)」は、P F C 会員メリットの重要ツールとなっている。読者に「通信文化協会」のP R も兼ねて、抽選により毎回20名へ賞品(レターセット等)と会報「通信文化」を贈呈した。

(4) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を実施している。

5 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き賃貸しているほか、文京区湯島にある新湯島ビルの2・3階各室を賃貸マンションとし、その入居管理・ビル管理等を委託して、円滑な運営と安定した賃貸収入を確保するとともに、計画どおりの借入金返済を行った。

6 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

(1) 叙勲祝賀会の開催

勲章を受章した本部及び関東・東京・南関東地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で、春と秋に祝賀会を開催した。また、北海道及び中国地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

(2) 新年賀詞交歓会の開催

東京都内と関東・南関東地域在住の会員を対象に、本部及び関東・東京・南関東地方本部の共催で1月22日(木)、KKRホテル東京において開催した。また、北海道、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

(3) 記念品等の贈呈

- ア 会員へのサービスとして、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,963人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。
- イ 米寿を迎えた個人会員504人に「米寿記念品」を贈呈した。
- ウ 協会手帳を配付した(希望者のみ)。

(4) 団体傷害保険等の取扱い

通信文化協会会員及び郵政グループ社員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【令和7年度における契約状況】

区 別	口・件 数	保 險 料
団 体 保 険	59千口	565 百万円
団 体 扱 保 険	5 千件	294 百万円

7 会員増加対策

令和7年度の会員増加対策については、新規入会の個人会員会費の1,000円割引キャンペーンの継続や定年退職者等のシニア会員への継続確保施策に取り組み、事業運営の基盤である会員の獲得に努めることとし、純増目標として、個人会員・法人会員(口数)を合わせた610人・口を設定した。

地方本部における勧奨活動体制としての運営委員会の開催や地域に密着した参与の積極的な勧奨活動体制の強化や会員サービスとしての会報掲載内容の充実を図るとともに、身近な「地方本部だより」の発行、会費の税制優遇の周知などにより、新規加入会員は1,958人となったものの、年度末の個人会員数・法人会員(口数)に対しては、1,038人・口(対目標▲170.7%)の純減となった。

会員の現況は次のとおりである。

区 別	令和7年度末	令和6年度末	増・減
個人会員(人)	59,642	60,624	982人減
法人会員(口)	848	904	56口減

(個人会員地方本部等内訳)

区 別	令和7年度末(人)	区 別	令和7年度末(人)
北海道	5,343	近畿	8,354
東北	5,754	中国	4,359
関東	5,434	四国	3,195
東京	4,265	九州	6,584
南関東	2,135	沖縄	520
信越	3,964	本部	535
北陸	2,240		
東海	6,960	合 計	59,642

8 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

代表理事の職務執行状況の報告は、第41回及び第43回理事会において行った。

(1) 理事会

○ 第41回理事会(令和7年5月23日)

- ＜議案＞
- 1 令和6年度事業報告
 - 2 令和6年度決算報告
 - 3 特別寄附金の受入れ
 - 4 定時評議員会の開催

- <報告> 1 職務の執行状況 R07.02～R07.05
2 前島密賞選考委員の変更について

○ 第42回理事会（令和7年6月17日）

- <議案> 代表理事の選定

○ 第43回 理事会（令和8年2月20日）

- <議案> 1 第71回前島密賞の授賞者決定
2 令和8年度事業計画
3 令和8年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み
4 内規の整備
5 評議員会の開催

- <報告> 職務の執行状況 R07.05～R08.01

（2）評議員会

○ 第27回 評議員会（令和7年6月17日）

- <議案> 1 議長の選出
2 議事録署名人の選出
3 令和6年度決算報告書
4 評議員の選任
5 理事の選任

- <報告> 1 令和6年度事業報告書
2 特別寄附金の受入
3 前島密賞選考委員について

○ 第28回 評議員会（令和8年3月12日）

- <議案> 1 議長の選出
2 議事録署名人の選出
3 令和8年度事業計画
4 令和8年度収支予算、資金調達及び設備投資の見込み

- <報告> 1 第71回前島密賞の贈呈
2 顧問の委嘱
3 内規の整備

9 資金運用の弾力化

公益法人としての責務である公益目的事業を維持推進するために、少しでも財政状況を改善する観点から、満期償還債券について資金運用方針に定めるポートフォリオに基づき、効率的な資金運用を実施するための規程類の整備を図り、令和8年度の新運用計画を策定した。

10 寄附の依頼

(1) 会員への寄附の依頼

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附（支援）をお願いしており、令和7年度は1,313人の会員から総額199万5,500円の寄附収入があった。

(2) 一般寄附の募集

令和6年度から公益目的事業として実施している郵政博物館での展示活動や文化講演会等通信文化の普及・発展の更なる充実に活用することを目的に、会報及びホームページを通じ、広く寄附金を募集している。令和7年度は、21人から19万8,000円の寄付があった。

11 業務等の見直し

協会の存立基盤である会員の確保・会費収入の確保は協会財務に連動する極めて重要な業務であるため、より一層、地方本部における執行体制の強化を図れる本部長等人材の活用・登用を推進している。また、地方本部勤務職員の賃金支給事務、社会保険厚生年金等事務、納税関係事務について本部で一括して行うよう事務の集約化を行った。また、本部・地方本部の協会内ネットワークを構築しITを積極的に活用している。

令和7年度事業報告書には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和8年5月

公益財団法人 通信文化協会